国指定鳥獣保護区・ラムサール条約登録湿地

都会のすぐそばにある野生生物の宝庫「藤前干潟」

名古屋自然保護官事務所アクティブレンジャー　野村　朋子

藤前干潟は工業地帯の中にあり、埋立て計画を市民の力で回避した生物多様性の豊かな場所です。潮が最も引く時には約238haもの干潟が現れ、年間約70種を超える渡り鳥がやってきます。また、干潟が出ると必ず現れる7種類のカニやトビハゼといった魚などの多くの生き物と触れ合い、命の営みを肌で感じることができます。名古屋駅から電車を使って約30分の位置にある自然「藤前干潟」の魅力を今回は大きく2つ紹介したいと思います。

1

1つ目は、鳥が驚くほど良く見えることです。干潟には森や林などと違って視界を遮るものがないため、鳥の行動や形態をつぶさに観察できます。

干潟を代表する渡り鳥であるシギ・チドリが干潟の穴にくちばしを出し入れし、ゴカイやカニなどを取っている姿はいつまでも見飽きません。バードウォッチング初心者や生き物の写真を撮り始めた方にもきっと楽しんでもらえるはずです。

冬に藤前干潟に渡ってくるスズガモ

2

2つ目の魅力として、藤前干潟には守られた歴史があり、それが引き継がれていることです。藤前干潟には、1980年代以降、埋立て計画がありましたが、市民活動によって埋立てから守られ、2002年に国指定鳥獣保護区となると同時に、ラムサール条約(※1)に登録され、現在は保全と健全な利用が図られています。環境省の教育学習施設として、稲永ビジターセンターと藤前活動センターができ、野鳥観察や干潟の生き物観察など、自然と触れ合うプログラムが数多く行われています。参加者の皆さんからは、大都会の名古屋で多種多様な生き物に会えることに驚き、喜ぶ声が毎回多く聞かれます。

5月の干潟の生き物観察会
(後ろにあるのは都市を結ぶ動脈である名港西大橋)

冬の間は昼間に干潟がほとんど出ませんが、冬鳥たちでにぎやかです。遠く、北の国から多くのカモたちがやってきています。是非、彼らに会いに来てください。

(※1：正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」)

FOCUS

開催しました!

3R推進中部地方大会

中部地方環境事務所では、10月の3R推進月間に関連する普及・啓発活動の一環として、2つのイベントを開催しました。多くの方に参加いただきありがとうございました。

第1弾!

9月18日(日)に、名古屋市の久屋大通公園において、「環境デーなごや2011中央行事」と連携して、食品リサイクルの現状・取組についての紹介、食品リサイクルの取組を応援する新たな愛称"めぐりふーど"のお披露目など、市民の方向けの展示、説明を行いました。また、タレントの原田さとみさんの進行により、3Rを考えるステージイベントによるPRも行いました。

第2弾!

11月15日(火)に、名古屋銀行協会大ホールにおいて「食品リサイクルのこれからを考えるシンポジウム」を開催しました。このシンポジウムでは、百瀬 則子(ユニー株式会社環境社会貢献部部長)による基調講演及び小売店、外食産業、農業者団体、堆肥化事業者及び関係行政機関を代表する方々によるパネルディスカッションを行い、食品リサイクルの課題や地域循環圏を構築する方向性等について様々なご意見、ご示唆をいただきました。